# KYOTO KEIKAN FORUM

# 2022 ANNUAL REPORT

景観整備機構 NPO法人京都景観フォーラム
「年次報告書」

CONTENTS

02ー03 京都景観エリアマネジメント講座
04 エリマネネット
05 地域サポート活動 三条通のまちづくり
06 地域サポート活動 その他の地域
07 受託事業
08 メモリーグラフ

# 京都景観エリアマネジメント講座
## －リニューアル２年目、さらに内容を充実－

文：村上 真史　*Murakami Masashi*、畝 博之　*Une Hiroyuki*

幅広い世代の交流が多様な価値観を知る機会に

2021 年度は、内容を大幅にリニューアルして再開したものの、緊急事態宣言により、中止、延期となる回があるなど、まだまだコロナ禍に翻弄された 1 年でしたが、2022 年度は、感染防止に配慮しつつ、全カリキュラムを無事予定どおりに開催することができました。

感染防止にも配慮したゆとりある配置

講義終了後に有志で交流会や茶話会など、受講生同士の積極的な交流が進む場を設けたことで、講義の合間の休憩時間やグループ作業中の受講生同士の会話が増えて賑やかになったと感じます。

また、多様な専門分野を持つ社会人に加え、大学生、社会人学生、シニア世代など幅広い方々が受講されていることで、普段知り合う機会の少ない方々との会話が自らの成長に繋がったという声もいただきました。

リアルで集まることの大切さを改めて実感した 1 年となりました。

まちの景観の課題を探る

■基礎講座

2022 年度は、2021 年度の大幅リニューアルの内容を継承し、座学による「講義科目」とまち歩きやワークショップなどの「実習科目」でカリキュラムを構成しました。

文献で調べたまちを実際に歩いてみるとそこには新しい発見

実習科目の最後にグループの成果を発表

「講義科目」は、京都で活躍されている若い世代中心の布陣とした昨年度と同様の講師陣としました。

「実習科目」は、受講生が主体的に景観について考える機会とするとともに、受講生同士の交流にも主眼を置いたプログラムとしました。

受講生からも「受講生同士の交流を持つことができて大変有意義だった」「まちあるきでは、同じものを見ても違う見え方をしていることに気付けた」など好評で、景観への理解に繋がるとともに、グループ作業をきっかけに受講生同士の交流が深まったことがうかがえました。

■実践講座

基礎講座を規定回数以上出席された方には実践講座を用意しています。実践講座では基礎講座での知識、ディスカッションに加えて、まちづくりの実地体験をしていただきました。

2022 年度は地域で活躍されているまちづくりリーダーの方、先輩エリマネの方とディスカッションする機会を組み入れています。

参加者の皆さんは貴重な経験を通して熱心な議論が出来ました。提出された修了レポートは従来よりもさらにレベルアップしていると評価され、9 名の方が新たな「京都市景観エリアマネージャー」となられました。今後の様々な場面で活躍されていくことでしょう。

先輩エリマネから活動事例を聞く

現地を歩き、景観の理解の仕方を学ぶ

修了レポートはゼミ形式で意見を交換

# エリマネネットの活動
## －エリマネによる研究・研鑽・交流を目的としたネットワーク－

文：笹井 淳　*Sasai Atsushi*

新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みながら、エリマネの専門性を高める活動を、実地（リアル）とオンラインを交えて計 5 回実施しました。（※京都景観フォーラムではエリアマネジメント講座を修了した京都景観エリアマネージャーを「エリマネ」と呼んでいます。）

第1回：会館元職員のエリマネから説明を受ける

■第 1 回：エリマネ現地視察「京都国際会館と宝ヶ池」

第 6 期エリマネの宮川氏、第 10 期エリマネの上杉氏に、大谷幸夫氏がデザインし「公共建築百選」にも選ばれた京都国際会館をご案内いただき、モダニズム建築や交流の舞台となる庭園の魅力を肌で感じることができました。

第1回：「京都国際会館と宝ヶ池」現地視察の様子

■第 2 回：エリマネ活動紹介「山間地・過疎地域における地域活性化の取り組み」【オンライン開催】

第 3 期エリマネの竹山氏に、京都市左京区花背（はなせ）での活動に関わるきっかけから、昭和初期に建てられた民家の離れを改修したゲストハウス「HANA-Re」を中心とした地域活動・体験などを紹介いただき、参加者と意見交換をしました。

■第 3 回：エリマネ勉強会「みんながくらしやすい魅力と活力のあるまち」の実現に向けた都市計画の見直しについて

第3回：都市計画の見直しについてエリマネ勉強会

第 9 期エリマネの村上氏に、「都市計画の見直し」の概要を説明して頂きながら、参加者と意見交換を行い、京都市の政策について理解を深める機会になりました。

■第 4 回：懇親会「NPO 設立 11 周年記念パーティ」

11 周年記念パーティをささやかながら開催し、交流を深めました。

■第 5 回：エリマネ現地研修「堀先生と『学び』『歩き』『知る』伊勢現地研修」

基礎・実践講座でお世話になっている堀 繁先生をお迎えして、伊勢（伊勢神宮およびその門前町のまちづくり）について、事前学習（座学）で「学び」、現地で「歩き」、まちづくりを「知る」1 泊 2 日の研修を開催しました。

エリマネネット初めての宿泊研修は、昼夜にわたって、先生とエリマネとの深い交流が図られました。

第5回：内宮おはらい地区（景観計画重点地区）での現地研修

第5回：現地研修に当たっての事前座学研修

# 地域サポート活動

## 三条通をパブリックに使いこなす試み
### －まちづくり社会実験と未来ビジョン－

文：篁 正康　*Takamura Masamichi*

社会実験①：座ってみよし

昨年度発足した「三条通エリアマネジメント検討会議」のもと、今年度は、未来の三条通の日常を創造することを意識し、運営負担の少ない小規模なものも含め、4 回の社会実験を行いました。

6 月に行った第 1 回は、三条通に面した建物のセットバック空間にベンチを設置し、誰もが気軽に佇める空間を点在させました。8 月には主に住民向けに、社屋の前面空地をお借りしたファーマーズマーケットを開催しました。11 月の第 3 回は、昨年とは異なる 2 区間を車両通行止めとする大規模なものを行いました。東西各エリアを、主に大人の空間、子どもの空間とに特色分けし、飲食をしながらジャズを聴く、夜間まで実施するなど、昨年度にプラスした取り組みを行いました。また、将来的な電線地中化無電柱化を視野に、地上機を活用することを想定したベンチやカウンターを作成し、路上での利用実験も行いました。

平行して 5 回のまちカフェを開催し、講演や WS を通して、三条通の理想の将来像、およびそれに向けての取組みの検討を進め、「三条通未来ビジョン」としてまとめました。

社会実験②：ファーマーズマーケット

これらは、30 ～ 40 代の 5 名の若手が推進メンバーとして主体的に担っています。取組みの共有と更なる担い手の発掘・育成に向け、路上会議や清掃活動による活動の見える化、商店間 LINE グループの構築など、今後の持続可能な体制づくりに向けての支援を行いました。

社会実験③：遊んでみよし

## 三条通における近代洋風建築の取組み
### －オーナーズ会議と近代建築 WEEK－

文：篁 正康　*Takamura Masamichi*

近代建築こども探検隊

京都文化博物館でのシンポジウム

三条通には多くの近代洋風建築が存在するものの、これまでお互いのつながりはほとんどありませんでした。今年度初めて、三条通に存在する近代洋風建築の所有者・管理者が集まり、懇親を図るとともに所有者ゆえに抱える課題等を共有できる場を設けました。

市民の理解を深める「近代建築 WEEK」の取組みも定着し、今年度は「商い・魅力・エリア価値」をテーマにシンポジウムを開催するとともに、例年通り多様なツアー等も行いました。特に「近代建築探検隊」には地元高倉小学校の子どもたちの多くの参加があり、町家や寺社ではない、三条通特有の地域資源への気づきに繋がりました。

# 嵐山まちづくり協議会
## －嵐山らしい景観を考える勉強会を開催－

文：高橋 裕美　*Takahashi Yumi*

今年度は、地域住民や店舗をはじめ嵐山に関わる方々と共に嵐山らしい景観を考える勉強会を開催しました。9 月開催の「亀山公園の未来を考えるワークショップ」では、京都大学大学院准教授の深町加津枝氏や郷土資料研究家の金久孝喜氏からご講演頂き、現状における課題の抽出と再整備方針案についてお話頂きました。WS では約 70 名の参加者が各グループに分かれ、亀山公園の未来について議論が交わされました。12 月開催の「嵐山らしい夜間景観を考える勉強会」では、照明デザイナーの長町志穂氏にご講演頂き、嵐山の多様な景観特性を鑑みた嵐山らしい夜間景観の考え方などについて意見交換が行われました。

夜間景観を考える勉強会の様子

ワークショップの様子

# 鴨川運河会議
## －地域資源とデジタル技術の活用－

文：篁 正康　*Takamura Masamichi*

3Dスキャン上映 勉強会

極楽橋竣工100年記念事業

鴨川運河に架かる橋梁群は竣工から 100 年前後になるものが多く存在します。今年度 100 歳を迎えた極楽橋を祝う記念行事を行うとともに、数年後解体予定の一之橋の 3 Dスキャンや稲荷橋のドローンでの撮影といった最新のデジタル技術を用いたアーカイブ活動に取組み始めました。これらは上下水道局、建設局等行政担当部署との地道な協議・連携により、少しずつ実現に向かっています。これまで行政に顧みられることがほぼ無かった鴨川運河ですが、今年度上下水道局から発行された「そすいさんぽ」に鴨川運河コースが独立して取り上げられました。これも継続した市民活動の行政との関係性構築から生まれた成果だと言えます。

このほかにも、美学者からみた地域の風景に関する講演会、下極楽橋たもとの花壇整備など新しい活動とともに、ツアーや交流会など例年の取組みも進めました。

# 高松橋ひろばづくりの会
## －子育て世代が地域で集まる場に－

文：篁 正康　*Takamura Masamichi*

高松橋ひろばづくりの会では継続的に草引き等のひろばの整備を行いつつ、利活用の検討を行っています。今年度はここに参加している若い子育て世代が中心となって、地域に住む親子が参加できるイベント「ひろばであそぼ」を企画･開催しました。ママ友ネットワークを活かし、多くの親子の参加がありました。自らクローバーの種まきをし、育て、遊ぶことを通し、子どもたちの中に「自分たちのひろば」としての意識が芽生えていくことが期待されます。

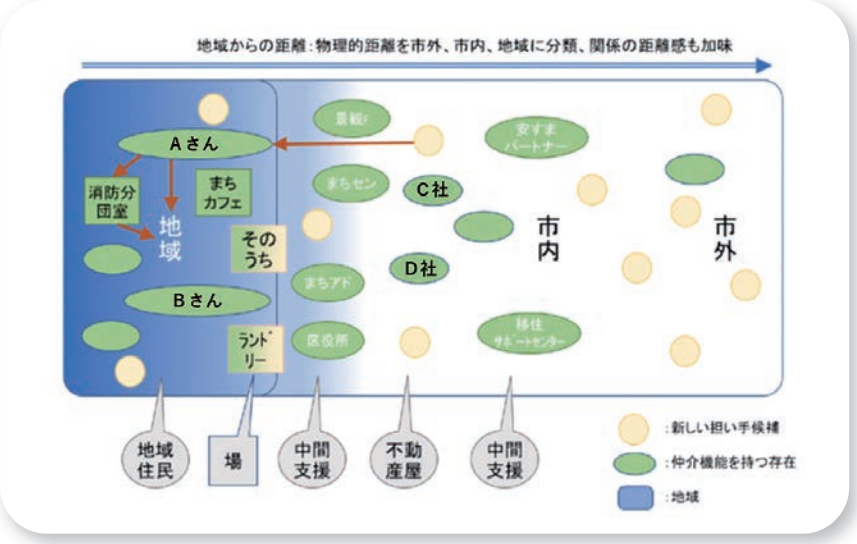
ひろば整備活動

親子イベントチラシ

# 受託業務

## －地域の担い手リサーチ業務－

文：森川 宏剛　*Morikawa Hiroyoshi*




新しい担い手が地域とつながるケーススタディ

地域組織の担い手不足が進む中、まちづくりの新しい担い手をどう見つけ、地域の活動につないでいけるか、将来的な景観まちづくりのあり方を考える調査を、京都市から受託しています。2021 年度からスタートし、2 年目を終えました。

これまでの調査で、新しく担い手になっている人は、地域とつながる際に仲介役を果たす存在がいたことがわかりました。2022 年度は、その仲介役に焦点をあてて調査しました。地域密着型の不動産業や、地域住民の中にも新しい人を受け入れやすくするよう役割を担っている人、地域と人をつなぐ場など、多様な仲介機能があることがわかりました。また、まちセンや景観フォーラムなどの中間支援機関や地域に近い区役所・まちアドなどの行政機関の役割も大きいのではないかと考えられます。

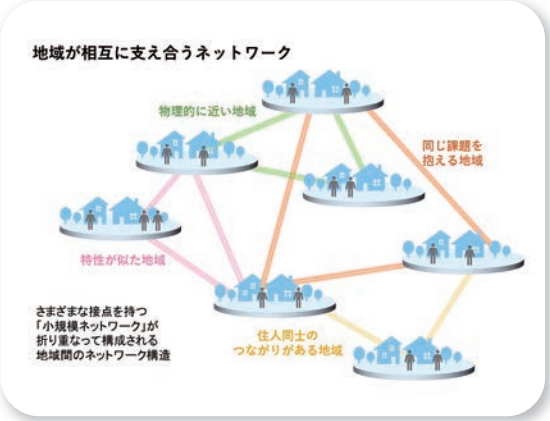
2023 年度には、どんな取り組みができそうか、検討を進める予定です。

## －建築協定連絡協議会での小規模交流会の開催－

文：西谷 早恵　*Nishitani Sae*

小規模交流会の様子

建築協定を締結する市内 41 委員会が加盟する京都市建築協定連絡協議会（以下、「連絡協議会」という）の事務局をお手伝いしています。2022 年度は会員地区同士が集まる「小規模交流会」が連絡協議会主催で開催されました。これは同じ行政区など近い地区、まちの特性が似た地区など、共通項をもつ地区同士が繋がり、その小さいネットワークが重なり合うことが、地域のまちづくりを支え合う大きなネットワークになることを目指しています。運営委員が輪番制となっている地区も多く、小規模交流会で生まれた繋がりの継続も課題です。これからも試行錯誤が続きます。




地域が相互に支え合うネットワーク

文：黒田 素子　*Kuroda Motoko*

# メモリーグラフ

## －アプリによる古写真アーカイブとまちあるき－

古写真を用いて過去と現在の景観を比較することができるアプリ「メモリーグラフ」が、使いやすくバージョンアップし、Android と iOS からリリースされました。
2021 年度は、1976 年ごろに京都市役所が市内で伝統的建造物群保存地区を指定する際に撮影した町並み写真を整理し、2 月には祇園新橋と産寧坂でワークショップを実施しました。
当時と変わった点について発見もありつつ、地域の、風情を保全するための努力を垣間見る思いでした。

1976 年と 2023 年 2 月時点の比較

ワークショップ当日の様子

京都景観フォーラムのホームページを

## リニューアル！

景観まちづくりを学ぶ京都景観エリアマネジメント講座、その講座の修了した景観エリアマネージャーの集まりであるエリマネネット、そしてエリマネがチームを作って地域サポート活動を行うという、景観フォーラムの主幹事業の展開がより分かりやすくなりました。ぜひご覧ください。

## NPO 法人 京都景観フォーラム WEB サイト

https://kyotokeikan.org

京都景観フォーラム　検索　※スマホにも対応しています

景観・まちづくりに関する活動情報をお届けします。

- 最新の情報をお届けします！まちづくりトピックス
- 京都景観フォーラムの活動紹介
- 京都景観エリアマネジメント講座カリキュラム・受講者の声を掲載
- イベント・シンポジウムの開催情報もこちらから

編集 / 京都景観フォーラム 広報委員会　デザイン・印刷 / 有限会社エイブル
発行 2023 年 5 月 20 日

KYOTO KEIKAN FORUM
NPO 法人京都景観フォーラム
https://kyotokeikan.org/　〒600-8191 京都市下京区五条高倉角堺町 21 番地 事務機のウエダビル 206
TEL：075-354-5224　FAX：075-491-9663　MAIL：kkf@kyotokeikan.org